

第 50 回歴史探訪の会

「一休さんゆかりのお寺と京田辺の史跡を巡る」

開催日：平成 28 年 5 月 18 日(水曜)

場所：京都府・京田辺市

案内人：澤田謙治



快晴の天候に恵まれ 17 名の方に参加頂きました。京田辺市は京都、奈良、大阪のほぼ中間に位置し、古くから交通の要衝として栄えました。TV アニメでおなじみの一休さんが晩年を過ごした一休寺を中心に京田辺市観光ボランティアガイド協会のガイドさん 2 名の案内で以下のコースで市内の史跡を巡りました。

【コース】

JR 同志社前駅～筒城宮伝承地(同志社キャンパス内)～酒屋神社～薪神社(昼食)～酬恩院(一休寺)～甘南備寺～棚倉孫神社～JR 京田辺駅(又は、近鉄新田辺駅)

【筒城宮(つつきのみや)伝承地】

JR 同志社前駅から広がる広大な同志社大学のキャンパス内に、第 26 代継体天皇が 511 年にこの付近に遷都したとされる「筒城の宮」伝承地の碑が建てられている。皇居があったとされる場所は諸説あるが、日本書によればこの辺りの都谷付近にあったとされる。

<継体天皇について>

系譜 第 26 代天皇(？～527 年、在位 25 年？)

- ・父：彦主人王(ひこうしのおおきみ)、
母：振媛(ふりひめ)
- ・皇后：手白香皇女(たしからのひめみこ)
- ・皇太子：第 29 代 欽明天皇
- ・皇姫：目子媛(めこひめ)
- ・皇子：第 27 代 安閑天皇
第 28 代 宣化天皇



- 年表
- ・第 25 代武烈天皇が亡くなると皇位継承者が絶えそうになり、大伴金村らが候補者を探し、越前にいた男大迹王(おおどのおおきみ)に白矢をたてた。
 - ・507 年 樟葉宮(大阪府枚方市樟葉)において即位
 - ・511 年 筒城宮(京都府京田辺市) 平城京以前に京田辺市には既に都があった。
 - ・518 年 弟国宮(京都府長岡京市)
 - ・526 年 大和国磐余玉穗宮(やまとのくにいわれたまほのみや)(奈良県桜井市)
- 業績
- ・五経博士を迎え朝鮮半島の進んだ文化を積極的に取り入れた。
 - ・筑紫国造磐井の乱を平定
 - ・農業、養蚕の育成に自ら動き、この天皇の代は土地が肥え五穀豊穡であった。
- 陵墓
- ・太田茶臼山古墳(大阪府茨木市)・・・宮内庁の見解
 - ・今城塚古墳(大阪府高槻市)・・・学者の見解
- 以上 2 つの考えがあるが、山崎 3 号墳 権現塚(京田辺市)との伝承もある。
- 継体天皇の即位で第 16 代仁徳天皇の系統が第 25 代武烈天皇で終わる。

【酒屋神社】

祭神は津速魂神(つはやむすびのかみ)と応神天皇を祀っています。

この酒屋神社には仲哀天皇と神功皇后の子供である応神天皇にまつわる話が残っています。社伝によれば、神功皇后が朝鮮出兵の際に 3 個の酒壺を神社の背後の山に安置し、帰国後その靈験に感謝して社殿を創立したとあります。本殿の屋根は唐破風の上に千鳥破風が配されており山城地域では珍しい。

又、お酒に関する話として古事記の応神天皇記に「渡来した酒造りの名人・須々許理が大陸の酒の技術を伝えた」とありますが、場所は特定出来ていません。しかし宮津地区にある佐牙神社に伝わる「本源記」には「仁徳天皇の頃、大陸から酒造りに才のある曾々保理が山背で酒造りに励んだ」と記されています。須々許理の“許”と曾々保理の“保”は朝鮮語では同じ発音。古事記の須々許理と佐牙神社の曾々保理は同一人物ではないかと言われています。須々許理が応神天皇に自ら造った酒を献上し、その酒をお飲みになった天皇が上機嫌になられたと云う故事も残っています。

酒の呼称は古代「さか」、「さが」であり、「さが」は朝鮮語で「発酵する」という意味を持っています。

その他にも河内国の酒造りを業とする「中臣酒屋連」の一族が興戸近辺に來住して酒造りを伝えたととも言われており、飯岡地区には旧墳として「酒屋連友夏の塚」が残っています。この様な伝承を元に京田辺市は日本での酒造りの発祥地ではないかとも言われています。



酒屋神社本殿、唐破風の上に千鳥破風がある



ガイドさんの説明を熱心に聞いています

【薪神社】

ご祭神は天津彦根命(あまつひこねのみこと)と 応神天皇。

寛政6(1795)年、神社を造営、明治 40(1907)年天神社と八幡社を合祀して薪神社としました。境内には、元々甘南備山頂にあり、月読命が仮の姿をとって現れたと伝わる石も祀られています。

また「能楽発祥の碑」と刻まれた石碑もあります。末社に武内宿禰が祀られています。武内宿禰は景行、成務、仲哀、応神、仁徳の5代の天皇に仕えた方として、長寿の神様として崇められています。



薪神社



能楽発祥の碑と刻まれた石碑

平安時代に「猿楽」と呼ばれていた芸が鎌倉時代頃から「座」を組んで「今様」などの要素を取入れた楽劇の形態を作り上げたと言われている。室町時代には「大和猿楽四座」(後の観世、金春、室生、金剛)ができ、観阿弥が人気を集めていた。観阿弥の後を受けたのが世阿弥で現在の能楽につながっている。薪神社に近い酬恩庵(一休寺)の山門前に「薪能金春芝跡」の碑があり、金春禅竹の能を一休さんが観たと伝えられる。

【酬恩庵(一休寺)】

TV のアニメ「一休さん」でお馴染みの一休さん(一休宗純)が人生の後半を過ごしたお寺で、宗派は臨済宗大徳寺末寺、山号は霊瑞山酬恩庵。開祖は大応国師、元の名を妙勝寺といい、1288 年(鎌倉時代)から 5 年をかけて大応国師(南浦紹明)により創建されました。1429 年(室町時代前期)、大応国師より六代目の法孫一休禅師が荒廃した妙勝寺に立ち寄り、1456 年に再興し、酬恩庵と名付けました。

本堂は足利第 6 代将軍足利義教により建立されたもので、山城地区の唐様仏殿で最も古い建物です。庵には方丈庭園(松花堂昭乗他 2 名の合作と伝わる)、虎丘庭園(村田珠光の作と伝わる)があり、ご住職よりご説明を頂きました。



方丈庭園



虎丘庭園でご住職の説明を聴く

庵にある三本杉は一休さん、蓮如上人、蟬川新右衛門の3人がそれぞれ1本ずつ植えた杉との説があります。元々あった3本の杉は1961年の第二室戸台風で倒れてしまい、現在ある3本は1965年に植え直したものです。蟬川新右衛門は足利第6代將軍の政所代という役人(現在の内閣官房長官の様な立場)で、TVアニメでは一休さんよりも年上となっていたのですが、実際は一休さんの方がずっと年上です。



三本杉

<一休さんについて>

京都に生まれ、父は第100代後小松天皇、母は藤原氏の血筋と伝えられる。6歳で安国寺に入門、受戒する。17歳で戒名を「宗純」とあらためる。1415年頃には大徳寺に入り道号「一休」を授かる。1428年、88歳と云う当時としてはたいへんな長寿で死亡。仏教の戒律で禁じられていた飲酒、肉食をしていたと言われ、森女と云う盲目の女性と一緒に暮らしていた型破りの僧であったようです。

天皇のご落胤と云う高貴な血筋にありながら戒律や形式にとらわれない生き方が庶民に親しみを感じさせたと思われ、後世に一休さんの「とんち話し」が作られたようです。一休禅師の墓は境内にあるが、後小松天皇のご落胤との説がありこれに基づき宮内庁が陵墓として管理しているため、立ち入りは出来ない。天皇のご落胤と云う事で門の扉には菊花紋章がある。



一休禅師の墓所



若い頃の一休さんの像



酬恩庵(一休寺)内にある近江源氏佐々木承禎(六角義賢)、及び能楽観世流3代音阿弥、15代元章、19代清興のお墓

【甘南備(かんなび)寺】

山号を医王山、黄檗宗万福寺派の寺院。奈良時代、行基によって開創された真言宗の寺。元々、甘南備山の山中にあり、その名は古く「今昔物語」巻14にある「みみず伝説」の寺院だが、中世に至って寺運は衰微し、堂舎も荒廃しました。元禄2(1689)年、薪の住人 吉川政信らが黄檗の鉄堂和尚を請じて中興開山とし、今の地に移して再建したと伝えられています。

本尊は薬師如来坐像(平安)で、高さ 86 cm、一木造り、重厚味のある藤原時代前期の優像です(比叡山の僧、慈覚大師の作とも伝えられる)。但し、十三仏を配した舟形光背と 裳懸座(台座)は後補です。両脇侍像は、鎌倉時代後半から南北朝時代の作と云われています。耳の仏として難聴者の信仰があり、「耳石」といわれる穴のあいた石を備えて病魔を退散させる風習があります。



甘南備寺入り口の竜宮門



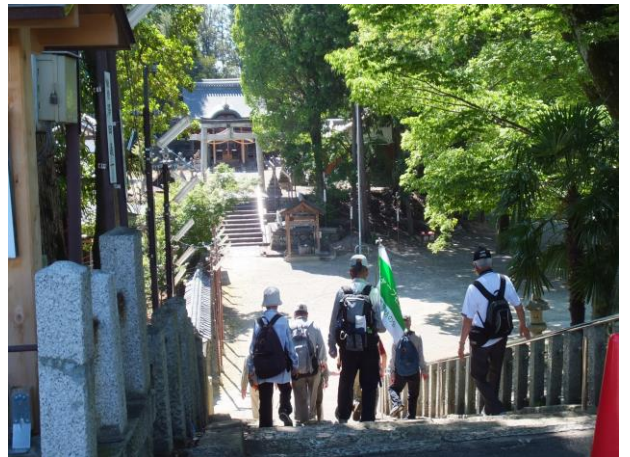
耳石

【棚倉孫(たなくらひこ)神社】

祭神は天香語山命(あめのかごやまのみこと)

棚倉の由来は、天香語山命は高倉下命(たかくらじのみこと)、または手栗彦命(たなくりひこのみこと)ともいい、これが訛って棚倉孫となったとする説、棚倉とは穀物を保管するにあたって床を設けた倉庫をいい、この山城には渡来人が多く、これが神格化したのではないかという説等があります。神武東征で紀州に上陸した際、熊の毒素に全軍が倒れそうになった時、天つ神から渡されたひと振りの太刀を払うと全軍が息を吹き返し、前に進む事ができました。この時、太刀を神武天皇に渡した神が天香語山命(あまのかごやまのみこと)です。

この神社には「ずいき神輿」という名が付けられた神輿があり、2年に一度作りかえられています。秋には京田辺市内を練り歩きます。「ずいき神輿」はずいき、茄子、唐辛子など30種類ほどの色とりどりの農作物で作られています。





酬恩庵(一休寺)山門前にて